

令和2年度 教育課程研究集会 中学校 国語

奈良県教育委員会事務局学校教育課

義務教育係長 川西 聡弘

E-mail kawanishi-toshihiro@office.pref.nara.lg.jp

新しい学習評価〈変わること〉

現行の学習評価（基本の4観点）

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

国語への
関心・意欲・態度

話す・聞く能力

書く能力

読む能力

言語についての
知識・理解・技能



新しい学習評価（全ての教科等で3観点）

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

育成すべき資質・能力の三つの柱

学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

学びに向かう力, 人間性等

どのように社会・世界と関わり,
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力, 判断力, 表現力等

国語科における指導事項の整理

〈現行の学習指導要領〉

A 話すこと・聞くこと（第3学年）

イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。



〈新しい学習指導要領〉

〔知識及び技能〕

(1)エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。



〈新しい学習指導要領〉

〔思考力, 判断力, 表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

新しい学習評価〈変わらないこと〉

現行の学習評価



新しい学習評価においても

新しい学習評価

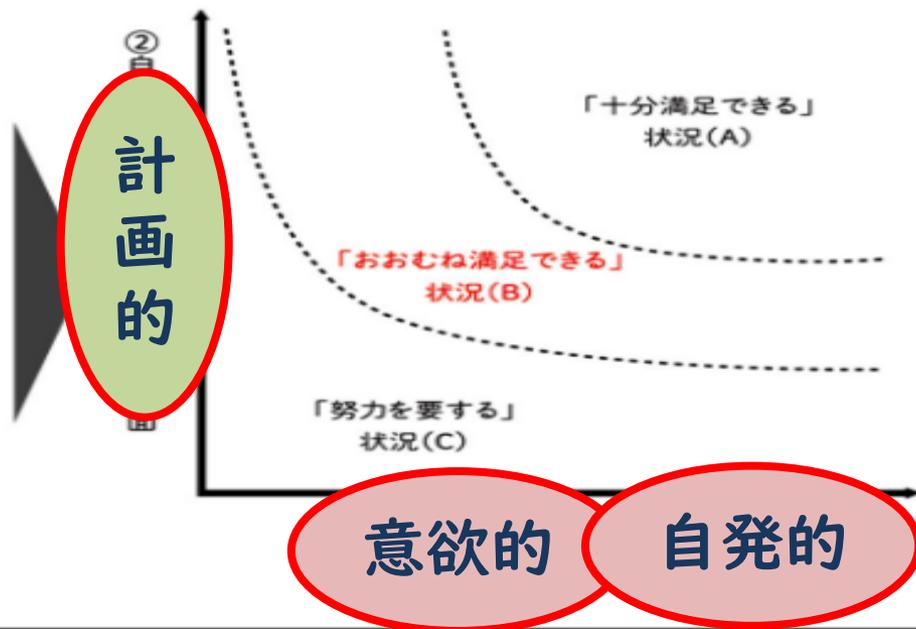


「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場면을、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

(「学習評価の在り方ハンドブック」より)



「主体的に学習に取り組む態度」の評価

<評価の工夫(例)>

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

内容を
評価すること

※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。
(例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。)

国語科 評価規準を作成する際の手順

〈例 第1学年「A 話すこと・聞くこと」の指導〉

◆言語活動 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて意見などを述べたりする活動

〈単元目標の設定〉

- ・指示する語句と接続する語句の役割について理解を**深めることができる**。
[知識及び技能](1)エ
- ・「**話すこと・聞くこと**」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を**検討することができる**。
[思考力, 判断力, 表現力等]A(1)ア
- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の伝統文化を大切に
して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性」

伝えたいことを報告する言語活動を通して、集めた情報を整理し伝え合う内容を検討する力を付ける単元。

国語科 評価規準を作成する際の手順

〈例 第1学年「A 話すこと・聞くこと」の指導〉

◆言語活動 紹介や報告など伝えたいことを話したり, それらを聞いて意見などを述べたりする活動

伝えたいことを報告する言語活動を通して、集めた情報を整理し伝え合う内容を検討する力を付ける単元。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 (〔知識及び技能〕(I)エ)	・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた情報を整理し、伝え合う内容を検討している。 (〔思考力, 判断力, 表現力等〕A(I)ア)	粘り強く(①), 集めた情報を整理し伝え合う内容を検討し, 学習の見通しをもって(②)伝えたいことを報告しようとしている。

意欲的
自発的

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

①粘り強さ (例) 〈積極的に, 進んで, 粘り強く 等〉

②自らの学習の調整 (例) 〈学習の見通しをもって, 学習課題に沿って, 今までの学習を想起して 等〉

計画的

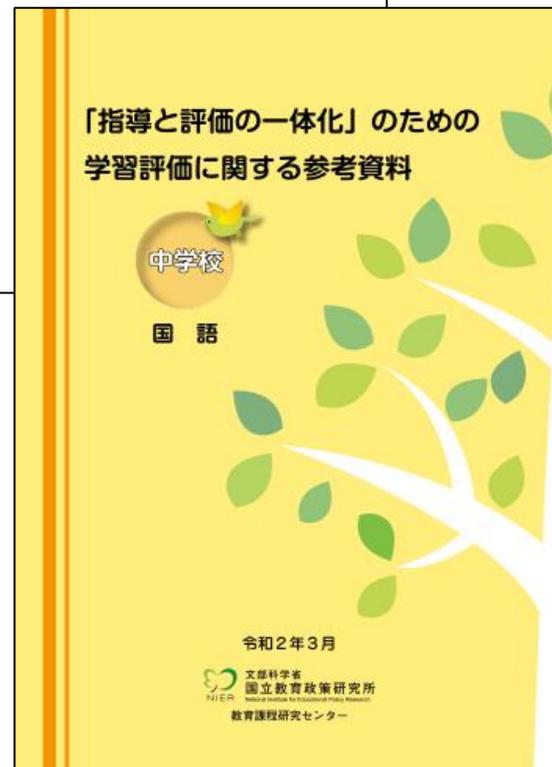
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第1編 総説

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成
する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価について
・指導事例(4事例)の紹介

国立教育政策研究所のwebページから
ダウンロードすることもできます。



〈年間指導計画表の作成〉(P49)

- 印=当該単元で指導及び評価する内容
- ◎印=重点的に指導及び評価する内容
- 印=当該単元で取り上げる言語活動

いつ、何の教材を扱うかだけでなく、いつ、どのような資質・能力(指導事項)を育成するのかを意図的・計画的に考えることが、極めて重要。

「年間指導計画表」の例

(第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」の一部を抜粋)

		1	2	3	4		
第1学年	単元名	□ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □		
	指導事項及び言語活動例	□	□	□	□		
		指導時数	4	5	4	5	
〔知識及び技能〕	(1)	ア	音声の働きやリズムについて、理解を深めること。	◎			
		イ	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加えて、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。			○	
		ウ	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。		◎		
		エ	単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。	○			
		オ	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。			○	
		ア	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。			○	
	(2)	イ	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。			○	
		ア	音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。				
		イ	古典には様々な種類の作品があることを知ること。				
		ウ	共通語と方言の果たす役割について理解すること。				
		(3)	エ	書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。			
			オ	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。			
〔思考力、判断力、表現力等〕	(1)	ア	目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。		○	○	
		イ	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。	○		◎	○
		ウ	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。		◎	○	
		エ	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。	◎			
		オ	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。			○	◎
	(2)	ア	紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見を述べたりする活動。		●		●
		イ	互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。	●			
		(上記以外の言語活動)				●	

第3編 単元ごとの学習評価について

〈指導事例(4事例)の紹介〉(P41)

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

「新たに知った言葉を紹介する ～聞き手を意識して話す～」(第1学年)

第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」(1)ア・ウを、言葉を紹介する言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。

本事例では、中学校国語科における指導と評価の基本的な考え方について概説する。

事例2 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

「投書を書こう ～多様な読み手を想定して文章全体を整える～」(第3学年)

第3学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」(1)エを、ICTを活用して投書を書く言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。

本事例では、主として「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一例を示す。

事例3 キーワード グループ活動における個別の評価、テストの工夫

「『走れメロス』を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう」(第2学年)

第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」(1)ア・イを、考えたことを語り合う言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。

本事例では、主として、グループ活動における個別の評価方法の一例を示す。

事例4 キーワード 「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価の明確化、学習の振り返りの活用

「清少納言と自分のものの見方や考え方を比べる」(第2学年)

第2学年〔知識及び技能〕(3)の「伝統的な言語文化」に関する事項と、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」(1)オを関連付けて指導した授業における評価事例を紹介する。

本事例では、古典を教材とした指導において、主として「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する方法の一例を示す。

[ポイント]

①事例ごとにキーワードを設けて解説。

②評価規準の提示とともに、具体的な評価の方法を解説。

③単元目標や単元の指導計画を併せて提示。

〈事例3〉キーワード グループ活動における個別の評価、テストの工夫 (P58)

単元名

「走れメロス」を読んで、登場人物の言動の意味を語り合おう

第2学年 C読むこと

内容のまとめ

第2学年

〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」

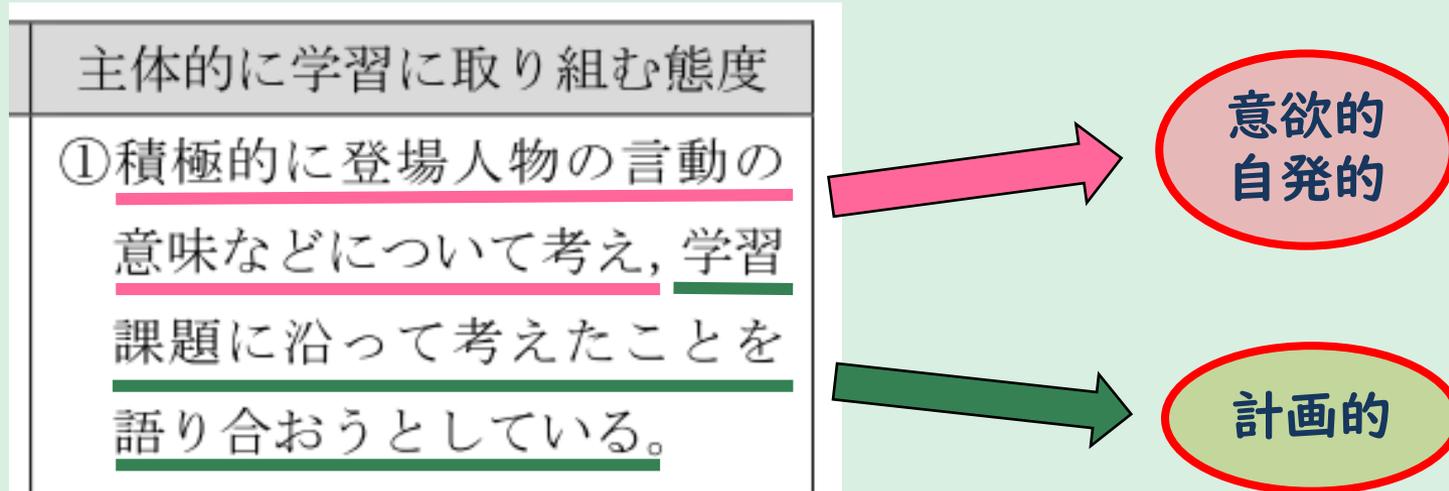
1 単元の目標

- (1) 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。 〔知識及び技能〕(2)イ
- (2) 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア
- (3) 登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っている。(2)イ <div style="border: 2px solid purple; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 単元の目標(1)に対応 </div>	①「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)	①積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題に沿って考えたことを語り合おうとしている。 <div style="border: 2px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 単元の目標(2)(3)に対応 </div>

〈事例3〉キーワード グループ活動における個別の評価、テストの工夫 (P58)



「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ① **粘り強さ** (例) 〈積極的に、進んで、粘り強く 等〉
- ② **自らの学習の調整** (例) 〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、
今までの学習を想起して 等〉

※巻末資料 (P75~P105) 「内容のまとめりごとの評価規準 (例)」
には、学年別、領域別に、言語活動ごとに評価規準の具体例が
示されています。ぜひ参考にしてください。

〈事例3〉キーワード グループ活動における個別の評価、テストの工夫 (P59)

●単元における指導と評価の計画

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
	<p>○ 担当する登場人物の言動に着目して文章を読み直し、登場人物の設定の仕方について考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>○ 登場人物の言動を書き出し、そこから考えた言動の意味をワークシートに記入する。</p> <p>【資料】参照</p>	<ul style="list-style-type: none">登場人物の設定の仕方についてまとめる際には、この物語にとって重要と考えられる登場人物の性格や言動の特徴、他の登場人物との関係について、文章全体を踏まえて捉えることを確認する。ワークシートの矢印内に各自で場面を入れさせ、話の展開を確認しながら言動を抜き出すよう指導する。	<p>[思考・判断・表現] ① ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none">ここでは、文章全体を踏まえて、担当する登場人物の「人物像」と「他の人物との関係」について正確に捉えているかを確認する。 <p><small>※本評価は、Aと判断する状況については、単元終了後のテストで判断する。(【テスト例1】参照)</small></p>

「Bと判断する状況」について、生徒の学習の状況(姿)を具体的に示すことが大切。こうすることで、何をどのように評価するかが具体的にイメージでき、育成したい資質・能力に応じた指導のポイントも明確になる。

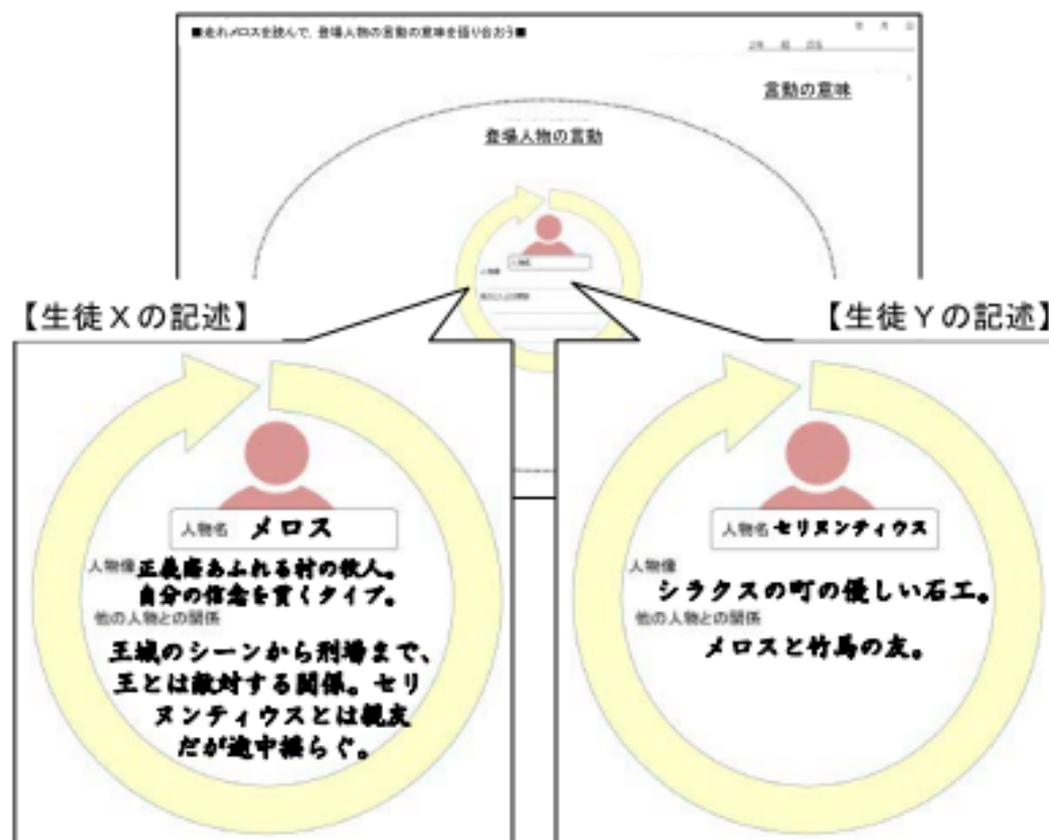
〈事例3〉キーワード グループ活動における個別の評価、テストの工夫 (P63)

(2) [思考・判断・表現] の評価

ワークシートの中央部には、登場人物の設定の仕方を捉えるために、担当する人物の「人物像」と「他の人物との関係」を記入する欄を設けている。第2時では、この二つの欄に記述されている内容を確認した。

【生徒Xの記述】は、「(人物像) 正義感あふれる村の牧人。自分の信念を貫くタイプ。/(他の人物との関係) 王城のシーンから刑場まで、王とは敵対する関係。セリヌンティウスとは親友だが途中揺らぐ。」であった。文章全体を踏まえて「正義感あふれる」などの人物像を正確に把握した上で、時間の経過に沿って他の人物との関係をまとめていることから、「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

【生徒Xと生徒Yのワークシートの記述】



を正確に把握した上で、時間の経過に沿って他の人物との関係をまとめていることから、「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

〈事例3〉キーワード グループ活動における個別の評価、テストの工夫 (P63)

●テストを用いた評価方法について

評価規準

思考・判断・表現

- ①「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。(C(1)ア)

評価のための テスト例

評価規準・評価方法等

【思考・判断・表現】① ワークシート

- ここでは、文章全体を踏まえて、担当する登場人物の「人物像」と「他の人物との関係」について正確に捉えているかを確認する

*本評価は、Aと判断する状況については、単元終了後のテストで判断する。【テスト例1】参照)

【思考・判断・表現】①の「十分満足できる」状況(A)については、以下の内容を単元末の小テストで問い、文章全体を踏まえて適切に解答できたものを「十分満足できる」状況(A)とした。

【テスト例1】

- 教科書と自分の授業ノートを使って、次の問いに答えなさい。

メロス、ディオニス、セリヌンティウスのうち2名を選び、文章全体を踏まえた上で、①それぞれの人物像と、②二人の関係を答えなさい。

〈事例3〉キーワード グループ活動における個別の評価、テストのエフ (P63)

評価規準

思考・判断・表現

- ②「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。
(C(1)イ)

上記の評価規準に従って評価を行うため、ここでは、「走れメロス」の全文を配布し、授業で取り上げなかったフィロストラトスについて出題した問題の一例を示している。
「走れメロス」とは異なる文章による問題を出題することも考えられる。

【テスト例2】

【登場人物同士の言動の関係捉える問題例】
次のフィロストラトスの言葉は、他の登場人物のどのような言動と関係していると思いますか。あとの条件1から条件3にしたがって、あなたの考えを書きなさい。

「やめてください。走るのはやめてください。今はご自分のお命が大事です。あの方は、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様がさんざんあの方をからかっても、メロスは来ますとだけ答え、強い信念をもち続けている様子でございました。」

条件1 関連していると考えるメロス、セリヌンティウス、ディオニスのいずれかの人物の言動を引用すること。

条件2 フィロストラトスの言葉とどのように関係しているかについて説明すること。
条件3 百五十文字から二百字程度で書くこと。

〈正答例〉

○メロスの言動を引用

「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。」というメロスの言葉と関係している。このフィロストラトスの言葉によって、メロスはセリヌンティウスが自分を信じていたことを知った。そのことによって、メロスは、走るのを止めようと考えた自分を恥ずかしく思い、友のために約束を守ろうとする決意を強めて「間に合う、間に合わぬは問題でないのだ。」と最後の力を振り絞って走っているのだと思う。(190字)

○セリヌンティウスの言動を引用

「私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生まれて初めて君を疑った。」というセリヌンティウスの言葉と関係していると思います。このフィロストラトスの言葉によって、周りから見たセリヌンティウスはメロスが戻ってくることを信じ切っているように見えていたことになりました。このことが、実はセリヌンティウスも心の中では一度だけメロスを疑っていたということ強調しているからです。(188字)

○ディオニスの言動を引用

ディオニスが最後に言った「おまえらは、わしの心に勝ったのだ。」というセリフの「おまえら」には、走りきったメロスだけでなく、王のからかいに動じなかったセリヌンティウスをたたえる気持ちも込められている。このフィロストラトスの言葉があるからこそ、ディオニスの最後の言葉に込められた気持ちを読み取ることができるのである。(156字)